



群馬県立館林高等学校  
同窓会会報

限界に挑戦!! ..... 50km強歩大会 (12.4.22)

創立80周年記念事業スタート (2面にあり)

八十周年記念事業  
にご協力を



同窓会長 岩瀬 秀市

同窓生の皆様お元気で  
すか、それぞれの分野で  
ご活躍をいただいております。  
心から感謝申し上げます。  
同窓会会報第二号が関係  
者皆様のご協力により充  
実した会報として会員皆  
様のもとにお届けできる  
ことを心からよろこび、  
感謝の気持ち一杯です。

本校の教育が  
めざすもの



校長 飯島 祥彦

同窓会会員の皆様には  
お元気に活躍のことと  
拝察いたします。また、  
本年に入り同窓生の皆様  
には、職業講話へのご協  
力、部活O.D会のご支援、  
著書や芸術作品のご寄贈  
その他、例年にも増して  
ご支援をいただきありが  
とうございます。O.Dあ  
つての館高であると感謝

母校も校長先生を始め先生方の熱心  
な教育実践により、学業に、スポーツ  
活動にすばらしい成果を収めており卒業  
生として誇りに思いこれからもより  
充実した館林高校になって欲しいと心  
から、期待を申し上げたいと存じます。

昨年より本部同窓会と東京同窓会との  
交流ゴルフを東京同窓会の呼びかけ  
により本年も去る五月十日に八十名を  
越える参加をいただき、板倉ゴルフ場  
にて開催し交流と親善をより深めた次  
第であります。今後皆様方の意見をい  
ただきながら二十一世紀に向けて、会  
員皆様から親しまれる館高同窓会をこ  
協力をいただきながら進めてまいりた  
いと思っております。現在の社会状況は、経  
済的にも社会的にも課題の多い時代だ  
と思っております。  
特に高校生の年代である十七歳前後

しております。  
さて、その後の学校の状況ですが、  
今年の進学実績は国公立大現役合格五  
十九名が示すようにここ数年右肩上が  
りで上昇しております。部活動もインタ  
ーハイに三部出場、そこで空手道の佐  
藤選手が全国三位入賞、関東大会には  
七部が出場、文化部も全国大会に二部  
出場と、活躍しています。このように  
館高は生徒職員一丸となって燃えてい  
ます。  
ところで、学校ではいま勉強だけで  
尻を叩くのではなく、将来への目標を  
もたせる指導にかなり力を入れていま  
す。「社会で活躍できる人材育成」をめ  
ざして、社会に目を開かせるために新  
聞を読ませノートに週一回記述させる  
指導を、またO.D十四人による職業講  
話や十七職種の企業訪問等により仕事  
を知り将来の職業研究をさせています。

の少年の凶悪事件が多発している現状を  
考える時に、子どもたちにとってよりよ  
い環境を構築し、子ども達を立派に育成  
するために、先ず大人が動かなければな  
らないと思っております。大人が大人として何  
をすべきかを今こそ考える時だと思いま  
す。

館林高校も来年八十周年を迎えるにあ  
たり同窓会として記念事業を計画いたし  
ておりますが、是非、趣旨をご理解下さ  
れましてご協力を賜りますようお願いい  
申し上げます。  
最後になりましたが同窓生皆様のそれ  
ぞれのお立場での限らないご活躍とご健  
康であることを心から「お念申し上げま  
すと共に館林高校の更なる発展を願ひ同  
窓生の心の絆がより強く友情の輪がより  
広く発展するようご期待申し上げます。  
ご挨拶とさせていただきます。

そして大学には目的をもって行かせる  
ために、大学教官による学部学科別講  
演会、シラバスやインターネット等に  
より専門探しをさせています。これは  
大学卒業時点で「あなたは何かができま  
すか」という質問に自信ある答えが持  
てるようにという指導です。また、若  
者の意見に耳を傾けるようにと本校主  
催の全国弁論大会を一年生全員に関か  
せています。行動への自信は体験から  
と、自己の肉体的精神的限界に挑戦す  
る五十キロ強歩大会を体験させ、強い  
自己過りをねらっています。これらを  
とおして、広い視野と強い専門の力を  
もった、人生の勝負に勝てる館高生、  
これが本校の教育がめざしているもの  
です。  
おわりに、会員各位のご健勝と同窓  
会の発展を祈念いたします。



# 館中高 創立80周年記念事業

## にご協力を

1. 募金
2. 記念式典の挙行
3. 80年誌の発行
4. 教育助成

### 「記念事業の あらまし」

今年に入り四月、七月、八月と本部役員会で記念事業について検討を重ね、その骨子が固まり、この度「創立八十年記念事業実行委員会」(委員長は岩瀬弥市同窓会長)が発足した。

事業内容は上記のとおりである。「募金」については、最近の経済・社会状況に鑑み、卒年毎に目標額を割り当てる様なことはせず、募金趣意書を会員各位に郵送し、会員が自発的に振り込む淨財のみに依ることとなった。「記念式典の挙行」については平成十三年の秋に予定、式典に参列希望の会員は三月迄に申し出いただきたい。「八十年誌の発行」については編集委員を委嘱し式典までに発刊をめざして目下取り組んで載っている。「教育助成」については活発な部活動の必需品である生徒輸送用のワゴン三台の更新その他を予定している。

これらは、同窓生の皆様の深いご理解とご支援無くしては全うできないので、絶大なるご協力をお願いしたい。

### 「八十年誌」編纂

#### はじめ

記念事業の一翼を担う記念



▲〈編纂委員会〉

誌の発行は、本校の歴史を熟知した長年本校に勤務したO日の方々にお願ひすることとなり、七月十三日に同窓会長より六名の委員が委嘱された。記念誌は以前に発刊された、「五十年史」「七十年の歩み」につくもので「八十年誌」として編纂することとなった。既に四回会議をもち編集方針等が検討された。内容は新制高校を中心としたものとして項立てに取り組んでいる。委員は奥澤義二委員長、半田雅典、斎藤孝夫、荻野次雄、武井章良、坂村孝の各氏。

会員の皆様には資料提供や原稿依頼にご協力を戴きたい。

### ○学年同窓会○

六月十八日に高校第三回卒業生会が、市内みやこホテルで開催された。

午後二時からの母校訪問の後、五時から「若さを保ち元気をだそう」と題して館野政也君(全沢医大卒・富山日赤病院長)の健康講話、六時からの懇親会は飯島徳治先生の乾杯に始まり、近況を語り合い、会えば力湧き若返ると豪語する者など和気あいあい、堀口勝彦君の指揮で、東筑波の雲晴れて・・・を響かせ散会。



▲〈高三年同窓会〉



▲〈昭和10年代の校舎〉

### 「同窓会」ゴルフコンペ

八十一名参加で盛況

新緑の五月十日、地元板倉ゴルフ場に館高同窓生八十一名が集い、盛大にゴルフコンペが催された。この大会は東京同窓会が例年やってきたコンペを、昨年からは各支部に働きかけ開催したもので、今年は地元からも約半数の参加をえて行われた。なおパーティーには岩瀬同窓会長、飯島

## 支部活動・学年同窓会

〔東京同窓会最近の動き〕

会長 鈴木 敏男

昨年末の第18回総会の後、花見の会、納涼の会を兼ねた理事会を挟んで役員会を3・4ヶ月おきに開き、更に電話の連絡を密にしながらより皆で親しめて魅力ある会になるよう努力を重ねている。4月には渋谷東京同窓会呼び掛けの群馬県下高校東京同窓会のピアノ伴奏による各校歌の合唱コンクールに参加、我が校歌の格調高さとして



◀東京同窓会のようす▶

ムの力強さに喝采を浴びた。(歌唱力、雰囲気作りは勿論?)

ゴルフの会も本校、各支部を加えた組織的な会に発展し(板倉ゴルフで80人以上が出席)大いに交流を深めた。これからも若い会員をより加えながら旅行・見学会、異業種交流会等も含めて更に内容のある会になる様、皆で仲良く結束して頑張っている。

鈴木敏男

〔板倉支部〕よりなる新組織を目指して、

支部長 萩野 次雄

創立二十年目の今年の総会において、集まりやすい会になるために会則を変更しました。主な点は、名称を「松東会」から「館高同窓会板倉支部」に。会員を板倉在住の同窓生と、非在住で賛同する方。としました。非在住の方は事務局長に連絡をお願いします。

小野田裕司郎

〔大泉支部〕

館泉会会長 河内 初光

来年は、母校創立八十年、二十一世紀の幕開け、館泉会もお陰様で発足三十八年です。最近の主な活動は(一)総会(毎年一月の第三土曜日)(二)役員会(三)歴史と文化の旅(四)ゴルフ大会(本部同窓会と館泉会)(五)館泉会名簿作成(地域別)(六)支部間交流会への参加。

次回総会は、来年一月二十日、会報発行も予定、御期待下さい。

河内初光

◀館泉会総会▶



〔千代田支部の活動状況〕

支部長 橋本 自郎

昨年までゴルフ大会やグランドゴルフ大会で汗を流し、夕方より総会、懇親会ということ、高校時代に帰った気分でお互いの懇親を深めて来ましたが、今年は八月二十七日(日)に東部運動公園にてグランドゴルフ大会を行い、新田家にて総会、懇親会を開催しました。

栗原節男

〔太田新田支部〕

支部長 満山 昭一

二十世紀が終ろうとしている今当支部は平成三年発足以来、満十年を迎える事が出来ました。

二十一世紀にむけ、さらに支部活動を活性化させたいと思っております。支部会員の皆様は、是非左記事務局へご一報ください。

岩松清市

校長もかけつけ、和気あいあい楽しい一時を過ごせた。

優勝は荒川武雄、二位小島勝友、三位野口三男、ベスグロ小久保清の各氏で今年は地の利を得てか地元勢が上位を独占した。

来年は十三年五月九日(水)板倉ゴルフ場で、地元同窓会が世話人となり開催することが確認された。奮ってご参加を。支部長にお申込み下さい。

◀ゴルフ大会にて賞品授与▶



## 思い出

## 大先輩登場

「私の思い出  
昭和十年第十回卒」

小暮 勝巳

学校からの突然の原稿依頼で、定かでない追憶を辿ることにになりました。然も原稿三〇〇×三枚とのことで、早速入ります。

(一)当時の入学試験と環境  
私は昭和五年入学、昭和十年卒です。この頃の時代背景は今の不況と違いバブルがなかったため、ダラダラと続く昭和恐慌と呼ばれた最中でした。

中学へ進学する者は一部落に一人位の時代、そのため定員一〇〇名のところ受験生九十一名、合格者八十名、そして二年に進学の時落第生十名位が常でした。

そして授業料月四円、校友会費五十銭、月の小遣いも五十銭、大福が十銭で七ヶ買えた時代。

(二)思い出の松林に懐かしき感謝  
われわれ卒業生なら誰でも思い出

深き松林だ。それぞれの思い出を胸に、鍛えられて雄々しく巣立っていった館高卒業生を呼びつつ。

(三)通学と寒稽古  
この頃は、自動車やバイクなど一台もなき時代、みんな自転車から通学だった。私は旧高島村藤川から八ヶ口の道程を5年間、自転車通学だった。雪の寒稽古も苦ともせず歩いて通ったものだ。思い出すだけでも今では懐かしい思い出であり体験であった。

(四)懐かしい先生達  
校長には佐藤、本山、村山先生が凛々しく存在。遠く懐かしき親近感だった。

先生では特に英語の森先生、国語の輪田先生、理科の新井先生は私の保証人だった。(実父が群師の同級生)先生方のご褒美を祈りつつ。

(五)最近の館高の成長に敬意と高い評価を贈りたい。  
それは一時期、館高はなれ現象もあつたようだが、最近では先生方の熱意とそれに生徒達の自律性による自覚と相俟って、誇れる館高となってきた。これは先輩として心より敬意を表したい。

(六)人生の中で并論は偉大なる武器であること。これは成功の鍵だ  
追伸：ここで更に学校の発展を祈りつつ、私の拙著を贈りご笑覧願いたい。

第一版「感謝に生きる私の企業と人生」  
これは文化財として国立国会図書館に永久保存。  
第二版「人生幸せ入門、必携四十八ヶ条」  
これは総理、知事ほか名著として書評をいたたく。

## 恩師登場



## 「思い出」

奥澤 義一

館高での思い出は新米教師時代即ち高校発足前後のものが多い。

数学の教科書は、裏の印刷が透けて見えるような薄い新聞紙大のもの一枚で、それを自分で折って切って冊子にして使ったものである。内容は要点のみであったが今より難しかったように思う。

このように物資の無い時代であったから、野球部では破れたボールは生徒が持ち帰り縫い直しては練習に使うので軟らかな硬球となり打つても飛ばなかった。ニューボールは試合のときだけである。

合宿時の煮炊きは生徒自身でやっていたが、配給米だけでは足りず補充するのも仕事のうちであった。

また、担任の仕事として夏休み中の家庭訪問がある。砂利の凹凸道で大汗をかきながら郡内を自転車で回ったものである。車社会の今日から見れば、よく自転車で回ったものだと自分で感心している。

もう一つの仕事に修学旅行の引率がある。昭和二十四年には関西旅行は許可にならなかったであろう。

伊豆大島への旅が実施された。ときは秋、夕方、東京月島橋機を出港し早朝大島岡田港着の船旅であった。外洋に出ると海は荒れていた。船の中で寝りだけが微かに見える。船は前後左右に大きく揺れ、今にも沈没するのではないかと思われる程であった。生徒の大多数は船酔いで船室

で横になっていいる。校長以下引率教師は甲板に腰を下し、万一のときのことで頭を固めていたのである。か、黙して語らず。空が白み始めて岡田港に着いたが着岸できず沖合から上陸用舟艇を使って上陸した。上陸すると船酔いは直ちに解消し、元氣を取り戻して旅を楽しんでいた。

一方、定時制の授業も担当していたが、当時の校舎は勿論木造であり、夏は虫が多く窓は開けられず、冬は透き間風の入るストープなしの教室で、生徒も教師も外套をきたままでの授業であった。向学心に燃えていた生徒達であったからこそ、あの状態で授業が出来たのだと今でも感心している。



◀記念石碑建立▶

サッカー部OB会記念碑を建立  
館林高校サッカー部OB会(岡野上会長)は五月十四日、「県蹴球協会発祥の地」記念碑を館林市文化会館前に建立した。群馬県蹴球協会が昭和二十四年、飯島徳治先生、遠藤仁之輔氏、柴田富伍氏らによって設立され、本部を館高内に置いたことを記念したもので、碑には協会設立尽力者名や館高サッカー部の足跡が刻まれており、国体、全国選手県大会、インターハイ等に計十三回出場した館高サッカー部の黄金期が克明に記されている。

# OBが学校へ



▶二十六年卒生母校訪問

## 二十六年卒十八名が母校訪問

五十年ぶりに母校を訪問したのは六月十八日のこと。桜並木、松林などの思い出の糸を手繰りながら浮かんできたのは、世間知らずで無鉄砲にも万事に燃えていた頃のこと。唯一現存の建造物「銃器庫」は我々にとつては農機具庫であったが懐かしく思えた。屋上から見渡す大谷原は住宅で埋まり隔世の感。でも喧嘩道場であった松林はなぜか威風堂々。心の洗濯ができた一時だった。

## 「十四名のOBが一日講師」

将来の職業観を育てる「職業別進路講演会」がOB十四名の協力をいただき七月十五日に開催された。

これは一・二年生全員に感心のある二つの職業の話聞いて研究成果をレポートさせる職業研究指導の一環。講師は十四名全員が各職種的第一線で活躍しているOBの皆さん。講師は各職種の仕事内容、面白さや大変さや就職するには等、後輩に熱っぽく語りかけていた。生徒にとつては働くとはどういうことか、今後の進路をどうするべきかを考える良い機会になったと思う。この企画は二回目で、去年は十二名のOBにお願いした。

◀十四名のOBが一日講師



## 「サッカー部OB会」

（献初め式）

サッカー部OB会（岡野上会長）では、年の始めの一月二日に現役選手の激励とOB会の発展充実を目的に、現役選手との試合を行い、その後、総会並び懇親会を「蹴初め式」の名称で実施している。増山監督によると、この「蹴初め式」は、かつてはOB会の節目の年に実施していたが、昭和六十三年から毎年実施するようになったとのこと。館高サッカー部初代監督の飯島徳治先生をはじめ、サッカー部創設期のOB第一期生から「館高サッカー部黄金時代」の選手達や大学生に至まで幅広い年齢層のOBが参加し、その数も年々増加しており、名門復活に賭けるOBの願いは熱いようである。

## 「井論部OB会井論大会を支援」

伝統誇る全国高等学校決勝井論大会。今年は九月十五日に全国から二十三名の弁士を迎え館林市三の丸芸術ホールで開催される。

## 井論部OB会「井松会」

（岩瀬弥市会長）は長年この大会を物心両面から支えてきた。今年も歓迎の言葉、会長賞、支援金の贈呈などを予定しているとのこと。この大会が絶えることなく四十九回目を迎えられるのはOB会の全面的支援があつてのことであろう。

◀井論部OB会の皆様



## 「卓球部OB会が現役生を激励」

夏真っ最中の七月三十日、本校第二体育館卓球場へ卓球部OB会（亀井仲治会長）が恒例の激励訪問をした。会長は「現在励みになっているのは高校時代の部活の思い出」と今の大切

さを強調し激励金を手渡した。その後は先輩たちも往年の名選手ぶりを発揮して現役生と楽しい汗を流していた。

◀卓球部OB会が激励訪問



## 「館高美術部OB展開催される」

若き日にタイムスリップと銘打ち、二十三年〜二十八年卒の十人の美術部OBたちは七月二十日〜二十六日の間、上毛新聞館林支局展示場で開催した。美術部の先輩後輩たちが創作作品を持ち寄り展示。昨年に続いて2回目だが、谷田貝修先生も駆けつけ激励して下さったとのこと。（世話人 福田良男氏）

## 学校はいま

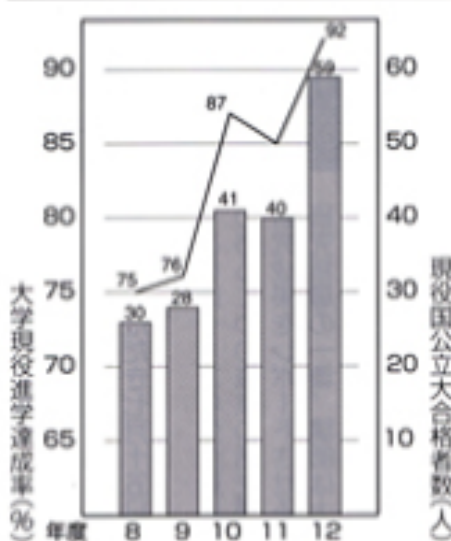
## 進路状況

躍進する館高の名に相応しく頑張っているのが生徒たちの進学実績。ここ五年間をみてもグラフのとおり急伸中。現役大学進学達成率は今年が九十二%という驚異的な数字。国立大学現役合格者は今春五十九名で昨年の五割アップ、十年前の五、六倍という数である。私立大学へも早大をはじめ六大学や理科大にも多く合格している。指定校推薦も昨年からは早大理工、今年から明大経営、青学大が追加され本校への評価も上がっていると見えよう。

なお、卒業生二七七名の進路決定先は、国立大五二、私立大一七九、短大三、専修一九、就職四、浪人二〇である。

■十二年度合格状況（現役のみ）  
 (国立大学) (59名)  
 群馬大18、北海道大1、筑波大3、千葉大3、埼玉大4、東京農工大1、宇都宮大5、茨城大3、新潟大1、山梨大2、山形大2、高崎経済大8、前橋工科大3、他5

(私立大学) (52名)  
 早稲田大3、上智大1、立教大2、青山学院大2、明治大5、中央大5、法政大9、東京理科大11、日本大41、芝浦工大5、獨協大17、東洋大42、専修大13、大東文化大13、東京電機大14、他30

前年度の1.5倍の伸び!  
国公立大学現役合格者数59名

## 部活動状況

昨年、レスリング部の長島兄弟がインターハイや国体等で全国優勝を果たしたことに刺激されてか、今年はレスリング部、ボート部、空手道部がインターハイ(全国高校総体)に選手を送った。中でも空手道の佐藤就一選手は全国三位に輝いた。関東大会には県代表としてレスリ

## 【空手道部】

岐阜県美濃加茂市で開催されたインターハイ。本校の佐藤就一君は予選、準決勝ともに一位で通過し、決勝の演武に臨んだ。緊張した様子もなく、自然体での演武は初出場ながら男子個人形三位という好成績をもたらした。

他の誰よりも努力していただけに、こうして結果を残せたことが嬉しい。「大学では日本」と語る彼の今後の活躍を期待する。

## 【レスリング部】



今年度の全国総体は岐阜県で開催された。レスリング競技は主催

の場のある岐阜市で8/2〜6までの間、熱戦が繰り広げられた。前半の団体戦は、一回戦、由良育英に4対3で勝ち、二回戦、東京都に2対5で敗退した。負けはしたもののシード校に内容的なもので、肉迫でき、納得のいく試合であった。後半の個人戦では、63キ口級の栗原が挑戦をモノにし第5位に入賞した。選抜大会第3位の米山(130キ口級)が、二回戦で今大会の優勝者に惜敗し入賞を逃したのは残念であった。

昨年度は、二名の優勝者を柱にチームを編成できたが、その分を各自の自覚でカバーできた大会であったと、生徒に感心させられた。

## 【ボート部】

ボート部は7月31日から8月7日まで岐阜県川辺町川辺漕艇場で開催された。レスリング競技は主催の場のある岐阜市で8/2〜6までの間、熱戦が繰り広げられた。前半の団体戦は、一回戦、由良育英に4対3で勝ち、二回戦、東京都に2対5で敗退した。負けはしたもののシード校に内容的なもので、肉迫でき、納得のいく試合であった。後半の個人戦では、63キ口級の栗原が挑戦をモノにし第5位に入賞した。選抜大会第3位の米山(130キ口級)が、二回戦で今大会の優勝者に惜敗し入賞を逃したのは残念であった。

昨年度は、二名の優勝者を柱にチームを編成できたが、その分を各自の自覚でカバーできた大会であったと、生徒に感心させられた。

## 【卓球部】

卓球部O日の話しではおそろしく三十年ぶり位での関東大会団体戦出場でした。私が顧問になってから全国選抜大会へは、個人の部で群馬代表として過去に2名が出場を果たしましたが団体で県外へ出たのは初めてでしたが、その盛り上がりや興奮は格別のものでした。

大会は6月3日、4日の2日間、前橋のぐんまアリーナで行われました。団体での参加チームのほとんどが練習試合をした学校ばかりで、一回戦川越工業も練習試合では5分の学校だったのでチャンスだったのですが、結果は1-3で負けてしまいました。しかし、生徒も、その盛り上がり満足をしていました。

インターハイが行われました。試合前の3年生の怪我により思うように練習することができず万全の体制で試合に臨むことができませんでしたが、精一杯奮闘したようなので思いに残るものになったことでしょうか。これから次の代に頑張ってもらいたいです。

敗者復活戦4位  
 ダブルスカル 準々決勝6位  
 シングルスカル 準々決勝6位

## 学校はいま



### ●強歩大会 「50キロ強歩大会で 限界に挑戦」

昭和五十四年に始まった強歩大会も回を重ねて今年で二十一回目となった。四月は第四土曜日の二十二日、前日の雨は嘘のように晴れて爽やかな朝六時三十分、渡良瀬川の東北道橋下の河川敷を、全校生徒がスタート

した。渡良瀬川を下り、利根川と渡良瀬川との合流点を経て利根川を上り利根大塚から学校へ向かう全長五十二キロのコースである。途中広大な渡良瀬遊水池に触れ、六箇所の関門で水分補給をしたりして、最初にゴールしたのは二年生の落合君で十時五十一分に学校へ到着した。夕方五時半ころまでには全員の生徒がゴールした。

この行事は自己の限界に挑戦する行事で、一度の体験がデキタという成就感と自信と勇気を与え、二年生三年生と順位が上がる傾向にある。楽な方向へ流れるがちな現代の子にとって、苦難を乗り越える貴重な体験になる行事である。PTAから三百人近い応援をえて無事終了した。

一般参加者も歓迎しているので来年は同窓生の方もどうぞ参加を。

### ●井論大会 「全国高校井論大会 四十九回目をかぞえる」

今も綿々として引き継がれている井論大会は今年で四十九回大会。九月十五日全国から二十三名の参加を得て三の丸芸術ホールで開催される。この大会は昭和二十七年、戦後民主主義の高揚期で井論活動の盛んな時期、館高井論部創部三十周年記

念「近県高校井論大会」として始まった。その後「全関東高校決勝井論大会」となり、昭和五十四年から現在の「全国高等学校決勝井論大会」となっている。近年は全国的に高校生の井論離れが進み、全国規模の大会も漸減し、現在では全国に五大会が残るのみとなり、中でも公立高校主催は唯一で貴重な存在となっている。大会は本校井論部員と生徒会役員により運営される。

今大会では、北は北海道、南は愛知、石川の井士たちにより、高校生を取り巻く身近な問題から、政治や社会、教育問題などをテーマにして高校生らしい鋭い問い掛けが期待される。同窓生の皆様にもぜひお出かけ頂きたい。



### 【新聞部】

第二十四回全国高校総合文化祭の新聞部門に群馬県代表として三名が参加した。八月五日〜七日まで静岡市に昨年建設された十二階建てのグランドシップで、交流新聞作りを中心として、新聞作成と情報交換を行った。今後この経験は平成七年に復刊された「館高新聞」に活かされていくものと思われる。なお、出品した「館高新聞」は佳作に選ばれた。

### 【井論部】

高文祭井論部門に参加して、八月五日〜七日、静岡県富士市を会場として第二十四回全国高等学校総合文化祭(兼第四十七回文部大臣旗全国高等学校井論大会)が行なわれました。北海道から沖縄まで全国から五十三名の井士が出場しました。本校からは三年の竹内雅浩が出場しました。入賞出来ませんでした。本人にとって得るものが大きかった大会だともいえます。

### 【水泳部】

水泳部は六月に開催された県高校選手権を経て、七月二十五〜二十七日に横浜国際プールで行われた関東高校選手権に出場しました。出場種目は、四〇〇mリレー、八〇〇mリレー、四〇〇mメドレーリレー、それに一〇〇m背泳ぎと、総勢八名がエントリーしました。結果は残念ながら全て予選落ちで、全国標準記録も切ることができませんでした。

ここ四年ほど全国大会に出場していませんが、部員一丸となって全国大会に出場できるよう、努力していきたいと思えます。

きたいと思えます。

### 【ソフトテニス部】

今年の関東大会は六月三、四日高崎上並楯球場で行われた。本校からは個人戦に二ペア(吉成・柴田組、小山・曾根組、三年生)が出場した。両ペアとも初戦敗退したものの、持てる力を十分発揮して、善戦した。

一、二年生も三年生の関東大会出場を励みにして今後ますます活躍してくれることを期待している。



### 【陸上部】

平成十二年度関東高等学校陸上競技大会は、六月十六日より三日間、東京の駒沢公園陸上競技場で行われました。本校からは三年一組の金子夕介君が、男子三千メートル障害に出場しました。

大会前の金子君のランキングは二十四名中二十一位でしたので、守るものもなく、チャレンジする気持ち(本人は全国に行く気持ち)で臨みました。

レース直前も比較的リラックスしていたので、いい結果を期待したのですが、他の選手が一枚上手で、残念なことに予選通過はなりません。しかし彼の走りはとも立派で、最後まであきらめることなく全力で闘っていました。

今後は全国へ出場できる様、指導をしていきたいと思えます。



## 平成十二年 同窓会本部役員

名譽会長 参 与	顧問	副会長	監 事	事務局 (本校)
廣澤 純孝 (十一年卒) 谷津 義男 (二十八年卒) 矢口 昇 (二十五年卒) 安楽岡一雄 (四十一年卒) 松本 耕司 (三十八年卒)	渡辺利三郎 (三年卒) 飯島 祥佐 (母校校長・三十四年卒)	岩瀬 弥市 (二十五年卒) 橋田 基利 (十七年卒) 小磯 泰男 (二十六年卒) 宇治川福司 (二十七年卒) 山川 博 (二十九年卒) 岩崎 健典 (三十四年卒) 河本 栄一 (三十六年卒) 山崎 浩志 (二十八年卒) 山崎 稔 (三十二年卒) 前山 秀樹 (三十七年卒) 大隅 允雄 (三十八年卒) 堀田 栄 (十八年卒) 高木貞一郎 (二十七年卒) 橋本 清 (四十一年卒)	平田 一秀 増山 晏臣 関沢 浩 鈴木 康弘 斎藤 哲男 鷺尾 晃司	

## 去年の387名参加に感謝 今年も「館高同窓会総会親睦会」に参加を！

同じ釜の飯を食った友に会い、18歳頃の話を花が咲く  
年に一度位、若かりし頃を思い出し懐かしむのも良いもの  
そしてあの頃のパワーを呼び戻し奮い立つのも良いのでは

日時：平成12年11月11日（土）午後5時～

会場：グローバルアイ羽衣（館林市）TEL.0276-74-0110

（事前に参加券を購入のうえ、ご参加ください）

去年「行ってよかった同窓会」をめざして改革した館高同窓会は皆様のご理解とご協力のお陰で、何と387名の参加者を得て開催できた。会場が満杯にもかかわらず、総会のスリム化、同級生は同一席でゆっくり話せるなどが好評だった。「同窓生はみんな平等」の精神は引き継ぎ、今年は広い会場に移し400人同窓会親睦会をめざす。9月中旬から総会幹事により参加券が市中に出回りますのでご協力をお願いします。（参加券は5000円、事務局にもあります）

遠方の方も懐かしい同級生に会えますのでどうぞお出かけください。

### 事務局より

◀ 昨年の同窓会総会 ▶



#### ◎ 情報提供を

学年同窓会やクラス会、部活OB会等が行われましたらその情報や写真等を送ってください。会報に掲載したいと思えます。

#### ◎ 会員名簿を欲しい方は

名簿会社サラトに委託した平成十二年版同窓会会員名簿が七月に発行されました。ご希望の方は事務局まで、（四三〇〇円＋送料四五〇円）

#### ◎ 写真や資料を買ってください

八十年誌の編纂が始まりました。館中時代や館高時代の写真や資料を探しています。机中眠っているものを掘り起こし、お貸しただければ幸いです。複写して直ちにお返しします。連絡をお待ちしております。

### 編集後記

新生同窓会会報の発行も2回目になりました。昨年は、新「館高同窓会総会・親睦会」に「300名の参加を」とのスローガンに、387名もの、近隣は勿論、日頃離れて生活している会員の皆様に参加し、懐かしい時代に身を置き、話題に花を咲かせ、「来年もまた必ず会おう」という合言葉のうちに盛大に盛り上がり、心地よい余韻を残し終了いたしました。

これは全て、会員の皆様の協力、

総会幹事のご努力、のお陰と深く感謝致しております。

さて、本校も歴史を重ね、平成十三年には創立八〇周年を向かえます。めざましい進路と部活動の実績は会報に御案内の通りですが、この節目を機に、教育助成の一層の充実を計りたいと考えております。会員の皆様のご協力を頂けたら大変ありがたいと思えます。

最後になりましたが、同窓の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしております。

（記 平田）